

# 悩み・苦痛の逆療法

## 第1部 解脱の真理の発見

### (45) 西洋文明は悟りを難しくしている

文明は、自然がもたらす災害を防止したり、苦難を克服したり、人間生活を便利・安楽にしたり、医学による病苦の除去等により、人間の幸福を実現しようとしてきた。しかし、現在の進んだ文明を享受している現代人が昔の人より幸せであるかと聞かれた場合、100%現代人が幸せであるとは言えないであろう。

確かに、昔と比べれば、物質文明は、まぎれもなく現代の方が優れていると言える。しかし、心の満足度・心の豊かさについて現代人の方が恵まれていると言える人は少ないであろう。むしろ、現代の人の方が、心が貧しいと言えるであろう。これを立証する社会的事象を挙げれば、枚挙にいとまがないほどである。ノイローゼ・うつ病・統合失調症等の心の病の多発・自律神経失調症・各種のいじめ・犯罪の増加・自殺者の増加・ぎすぎすした人間関係・人情の希薄化等々である。

この原因は何であろうか。それには、物質文明に比べて精神文化が未発達ということが挙げられるであろう。文明と文化の違いは、文明が過去の遺産の蓄積が容易であり、次々と進歩していくものであるのに対し、精神文化は過去の遺産の蓄積の上に進歩を積み上げていくということが比較的困難な点にある。それだけに、現代の精神文化が釈迦・キリスト・孔子・ソクラテスの精神文化より優れているとは、必ずしも言えないのである。要するに、現代人は、現在の精神文化では、心の満足を得られないのである。

それとともに、西洋文明の発達が、人間の煩惱の解脱にマイナスに働いていることも否めないのである。その理由は、第一に、文明は前述したように、人間の各種の苦難を克服するものとして生まれてきた。そうすると、心の苦しみなわち煩惱の苦痛を感じると、物質文明発展と同じ思考方法、特に論理的思考方法でその原因を究明して、克服しようとする。しかし、これは煩惱の解脱にはならず、むしろ心の葛藤になる。心の苦痛が生じると、その苦痛を意識し、

噛みしめ味わい、受け容れるということは、文明の恵みを受けた人間にとっては、とても相容れない考え方なのである。

第二に、文明が発達していなかった時代には、生活上の様々な不便・苦難に遭遇して、多くの苦痛の機会があった。従って、このような苦痛を受容して生きていく外に、方法はなかった。そのために、苦痛を噛みしめ味わう機会が多く、煩惱解脱の機会も多かった。しかし、文明の発達により、生活上の不便・苦難の多くが消失してしまった。第一の論理的思考に加えて、これにふっても、苦痛を噛みしめ味わうことによる煩惱の解脱の機会が少なくなったのである。

それでは、人間は文明に対してどのように対処すべきなのであろうか。第一番目に、文明発展の基礎の一つである論理的思考方法を心の問題に適用すべきでないのである。苦痛を除去するのではなく、苦痛を意識して噛みしめ味わい更には強めるべきである。

第二番目に、物質文明への対処の仕方であるが、一つ目の対処の仕方は、昔の生活に戻り、文明の利器をできるだけ排除して、生活上の不便・苦難を再現することにより、苦痛の機会を増加させることである。これは、禁欲主義の一つと言える。

二つ目の対処の仕方は、文明の利器を大いに利用する方法である。実際上の問題として、文明の利器を排除して、昔の生活に戻るといっても、現実的には不可能あるいは困難なことが多い。

例えば、昔は徒歩でどこにでも行ったからといって、現実において電車・自動車・航空機を拒否したら、社会生活が成り立たない。私の祖父のように、頑固に医者にかからずに老衰で天寿を全うした者もいるが、通常は医療を拒否しては生活できないことである。

それでは、苦痛を噛みしめ味わい更には強める機会をどうするのかという問題であるが、幸か不幸か人間は、どんなに文明の利器を利用していても、心の苦痛は嫌になるほど存在するのである。その証拠に、前述したような数多くの社会問題が起こっている。それとともに、他の項でも述べているが、「自らのやること為すこと皆気に入らない」のが、真実の人間本性なのである。この些細な苦痛だけでもあり余るほど存在するのである。

もちろん、人によっては、自分の信条として、文明の利器はできるだけ使用

しないということ

があっても、それはそれで良いのである。例えば、夏のクーラー、冬の暖房も使用しないし、エレベーター、エスカレーターを使わずに階段を上り下りする等である。これにより心の修練の機会が増すことは間違いないことである。しかし、これは、個人の選択の問題であり、勧められるべきものではなく、ましてや強要できるものではない。

これを短歌にすれば、

世の中は 便利になりても 心うちの  
苦痛噛みしめ 強めるしかなし

となる。